

平成16年度 情報工学コース卒業研究報告要旨

石井(健)研究室	氏名	磯村直樹
卒業研究題目	テキスト対話におけるスクリプト自動生成法	
<p>近年、日本語で人と対話するシステムは様々な分野で研究利用されている。その多くは警備、接客などを目的としたタスク達成型のシステムであり、対話を楽しむことを目的としたシステムは少ない。そこで、本研究では、人がより親しみをもって自然な対話を行うことのできる対話システムの作成を目標とする。</p> <p>本研究の対象とする対話システム KELDIC (Ken's Laboratory Dialog Computer) は、ユーザの発話ごとに発話に対応する規則を探して返答を生成する。この手法では多くの対話に対応するためには膨大な量の規則を記述する必要がある。しかしながら、規則の記述は人が行うため、十分な量の規則を作るのは困難である。</p> <p>そこで、規則を利用するのではなく、スクリプト(対話における発話集)を用いた対話システムを考える。対話システムはこの中から適切なものを選んで発話を行う。どのような発話に対しても適切な発話を返すには、発話の元となるスクリプトの量を増やすことが必要である。</p> <p>本論文では対話システムの使用するスクリプトを単語の上位概念を用いて自動生成する方法を提案する。本手法では、収集した対話コーパスを元に、単語の上位概念を用いてスクリプトのベースを作成する。そして、キーワードを入力することでスクリプトのベースから対応する概念をもつ文を抽出し、対話に用いるスクリプトを自動で作成する。発話に対するカバー率を、上位概念を用いたスクリプト自動生成法の有効性を確認するための評価基準として用いた。カバー率とは、ある発話に対して、生成されたスクリプトの中に適切な返答が含まれている確率である。</p> <p>実験の結果、1923文の対話データから自動生成したスクリプトのカバー率は最大で97%となった。これにより、上位概念を用いたスクリプト自動生成法の有効性が確認された。</p>		